

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年9月分】

1. 実施した活動の概要・状況

9月になり、町内ではライトアップフェスや秋祭りが開催された。個人的にも川内町に慣れ、ライトアップフェス、ホタテフェスティバル、川内秋祭りなどと、地元の人と関わる機会も増えたのではないかと感じる。特に川内秋祭り（正式には川内八幡宮禮大祭）では、「川内町にはこんな人がいたのか」と思うくらい、祭りを通していろいろな人と関わる事ができた。後半には脇野沢地区の牛の首農村公園清掃活動に参加したり、個人的に交流を深め、「焼き干し」のお手伝いをした。焼き干しづくりでは、イワシを獲る作業、頭もぎの作業に参加した。これからが本番ではあるが、着任3ヶ月経たないうちにここまでできたのも、やはり、人のつながりがあってこそであると改めて感じる。

川内町の活性化と脇野沢地区の活性化のためにも、今後も勉強と行動を重ねて、自分のできることを増やし、地元の人々の笑顔づくりに貢献できるように努めていきたい。

（主な活動）

◇9月9日（金）～10日（土）・11日（日） まりんびーちライトアップフェス・ホタテフェスティバル

3連休で川内町の再復興をはかるイベントとして「かわうち・まりん・びーち ライトアップフェス」と「ホタテフェスティバル」を開催した。ライトアップフェスでは、ペットボトルに砂を入れ、ろうそくを挿してまりんびーちの歩道に並べたり、シュノーケル体験や宝探しイベントを実施した。ホタテフェスティバルでは、ホタテフリスビーの担当を努め、ホタテ貝の再利用の一つの手段としてミニゲーム感覚で楽しめる利用方法の場を提供するよう努めた。

この3日間のために準備を重ね、結果的に多くのお客様から「次回の開催への期待」をいただくことができた。また、川内町の地域の方々と交流を深めることができただけでなく、今後の体験イベントの新規追加の案を試すことができ、収穫の多いイベントとなった。さらにお客様の笑顔を引き出すためにできることを増やせるように努めていきたい。



◇9月17日（土）～18日（日） 川内秋祭り「川内八幡宮禮大祭」への参加

川内町内で行われる秋祭りに参加した。私の住む場所は「浜町」の山車があり、初めて見る祭りでありながらも一緒に川内の町内を歩くことができた。普段通ることのない場所に実際に歩いていき、普段話す機会のない人と話すことができた。川内町には思っていたよりもたくさんの方がいて、みんな優しくて温かい人であることを、祭りを通して感じる事ができた。

このお祭りは古くからやっているお祭りで、歴史があるということを知った。2種類のお囃子があり、5つの山車にはそれぞれご神体が乗っていた。祭りの歴史やご神体の由来を調べて、まとめて、次年度の祭りの期間に合わせて、来館されたお客様に周知できると、さらに地域の活性化に貢献できるのではないかと考える。川内町の魅力を発信し、地域活性化に貢献できるよう努めたい。



◇9月26日（月） 焼干し作成用定置網おこしとイワシの加工

26日、4時45分出航の船に同船し、焼干し用のイワシを獲っている定置網をおこす作業と、港に着いてから、獲ってきた魚の選別作業ののち、イワシの頭と内臓を取る作業の手伝いもした。

脇野沢地区の焼干しの文化が人手不足等の理由で廃れてきていると聞き、自分にもできることはないかと考え、行動に至った。実際作業をしてみると、人の手がたくさん必要であることがわかった。網を起す作業では、イワシだけでなくシイラやマダイ、タチウオなどを見ることができた。安定しない船の上で網を引っ張る作業は、身体に負担がかかるものであることを体験した。イワシの加工作業では、一つ一つ手作業で加工が行われていて、焼干しは手間がかかって出来上がっているのを実感した。まだ焼く作業、干す作業は未経験であるため、全工程を体験して、次年度からは戦力になり、文化を廃れさせないように努めていきたい。



2. 翌月の活動予定

10月も9月に引き続き、毎週末、イベントが開催される。どのイベントも貴重な体験をすることができるため無駄にすることなく取り組んでいきたい。11月には焼干しのメイン作業があるため、準備を怠らないよう努めていきたい。

10月16日 川のガサガサ探検イベント

10月22日 むつ市ゲートウェイフェスティバル（～23日）